

現場職員向けBCP研修

停電時の対応



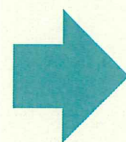
伊藤 享佑 先生

停電により利用者に引き起こされる悪影響

介護施設でよく利用される電気設備

- 避難に必要なエレベーターの電源
- 避難集合場所の照明
- 厨房設備
- 人工呼吸器
- 吸引機
- 温水洗浄便座
- パソコン
- 施設内放送設備
- 携帯電話充電
- ポンプ等

停電発生



- 避難の遅れ
- 日常業務の停止・一部縮小
- 生命の危機
- 利用者の生活環境の変化
- 復旧活動の遅れ

高齢者施設における災害時の電力維持は急務の課題

停電時の対応「発電機」

『発電機』

- ガソリン式 ガス式 はエネルギーを足すことで運転できる
- 運転は排気ガス／騒音がある為、屋外で使用する
 - ※屋外運用だが、雨中では使用出来ない
- ケーブルを延長すると電圧が下がる
 - 電気製品を正常に動かせない場合がある



停電時の対応「蓄電池」

『蓄電池』

- 溜めてある電気を必要な分だけ使用でき、残りは保存可能
- 屋内で使用することが可能
- 多層階に移動して電気製品を稼働できる
- メインスイッチONで簡単に出力が出来る
- 専用のソーラーパネルで蓄電することが可能
- ガソリン運搬が出来ない時も充電可能



現場職員向けBCP研修

生活支援時の対応



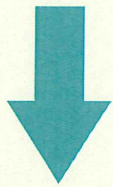
伊藤 享佑 先生

利用者の生活環境を維持する（建物）

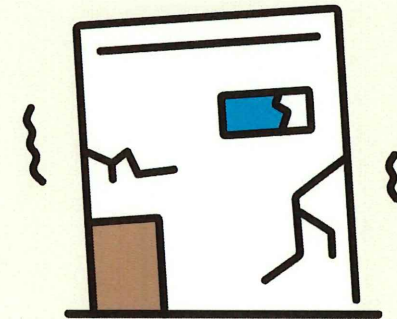
利用者の生活を維持する上で、建物自体の耐震性を把握する

1981年6月以前に
建築旧耐震基準

1981年6月以降に建築
新耐震基準



耐震診断



利用者の生活環境を維持する（食事）

非常食の備蓄

日頃食べているものがオススメ（嚥下・アレルギー対応品等）

- ① 常温で長期保存が可能な食品
- ② 携帯ができるもの
- ③ 加熱不要でそのまま食べられ、水やお湯で食べられるもの
- ④ 日常で食べているもの（嚥下・アレルギー対応品等）

利用者の生活環境を維持する（食事）

非常食の備蓄

- ①利用者の嚥下機能・アレルギーなどに対応したもの
- ②常温で長期保存が可能なもの
- ③携帯ができるもの
- ④加熱不要でそのまま食べられ、水やお湯で食べられるもの
- ⑤利用者の口に合うもの

利用者の生活環境を維持する（食事）

1日の推奨摂取カロリー

- ①成人：1,600～1,800Kcal
- ②高齢者・子供：1280Kcal～1,440Kcal
- ③災害復旧作業従事者：2,600Kcal

利用者の生活環境を維持する（食事）

1人1日3食×3日分=9食が基本

※帰宅困難者用に1日使用分×3日分×人数分+予備10~20%の備蓄推奨

1日の推奨摂取カロリー

- ①成人：1,600~1,800Kcal
- ②高齢者・子供：1280Kcal~1,440Kcal
- ③災害復旧作業従事者：2,600Kcal



利用者の生活環境を維持する（水）

水の備蓄

インフラがストップし、完全に水道が復旧するまでは**約2ヶ月間**を要する。

それまでは、給水車が定期的に避難所等を巡回することになるが、道路の被害状況により、発災後**3日～5日**かかることもある。

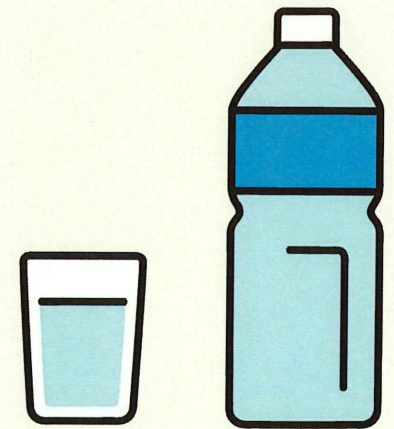
そこで、必ず飲料水の確保が必要であり**最低3日**、できれば**1週間分**を準備すること。

また、飲料水だけでなく生活用水もポリタンク等で貯めておく。

利用者の生活環境を維持する（水）

1人1日3L×3日分=9Lが基本

※帰宅困難者用に、1日使用分×3日分×人数分+予備10~20%の備蓄推奨



利用者の生活環境を維持する（トイレ）

トイレの備蓄

深刻で切実な問題は、上下水道の復旧は、**2カ月間**程度を要するので、水洗トイレは、雑用水で流しても限界がありますので使用はできない。

したがって凝固剤入りの簡易トイレをお勧めする。

また、仮設トイレは、諸々と問題が発生しますが、一人一人にマナーを守ってもらい、清潔に使用してもらうことにも留意しなくてはならない。

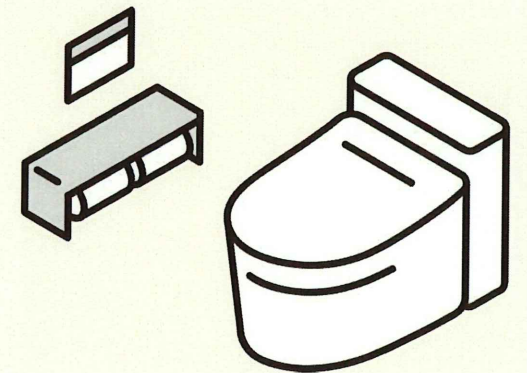




利用者の生活環境を維持する（トイレ）

1人1日5回×7日分=35回分が最低

※帰宅困難者用に、1日使用分×7日分×人数分+予備10~20%の備蓄推奨



備蓄のポイント

最低限、賞味期限 **6ヶ月以上保存できるもの**にする
非常食の多くは **3年～5年保存可能**



備蓄のポイント

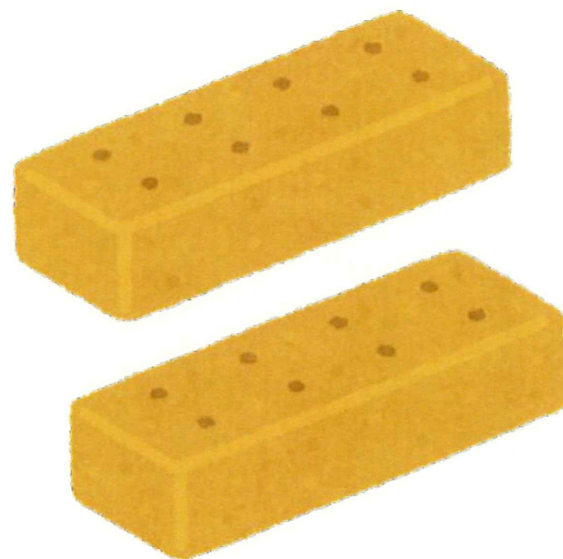
食べ物より**飲み物をしっかり備蓄**する
3 L/人必要、調理用は別



備蓄のポイント

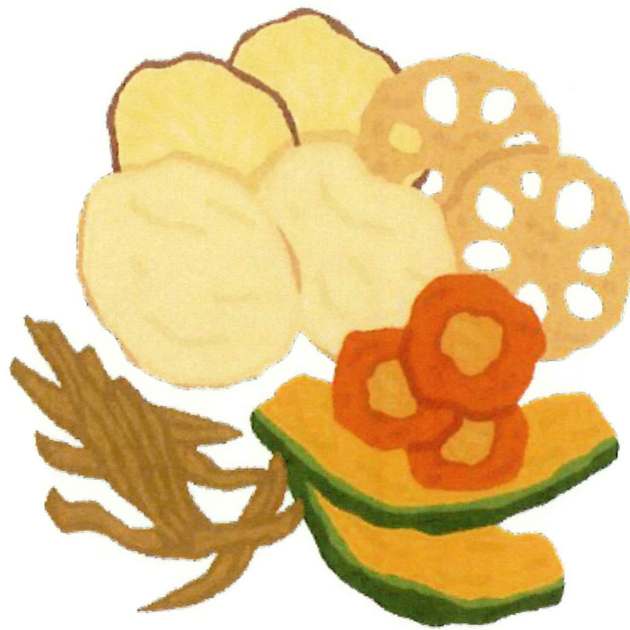
使いきりサイズを選ぶ

残っても冷蔵庫に保管できない



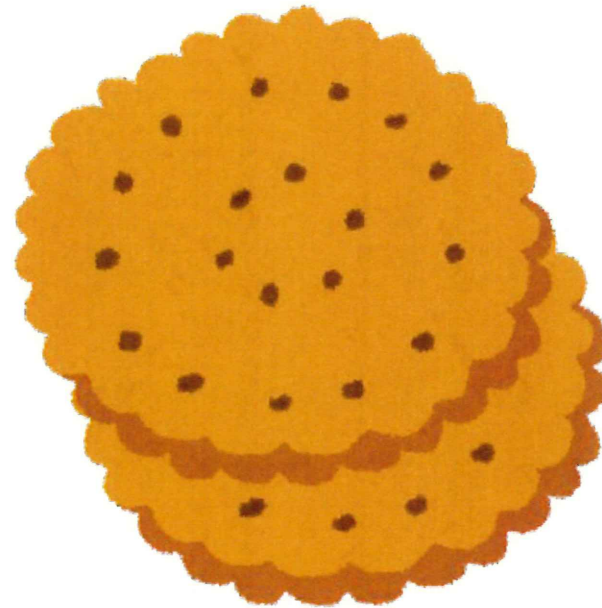
備蓄のポイント

野菜や果物の加工品を重視して備蓄する
ビタミン、ミネラル、食物繊維がとくに不足するため



備蓄のポイント

備蓄のポイント不安やストレスから食欲がなくなるために
「好きなもの」や「口に合うもの」を備蓄する



現場職員向けBCP研修

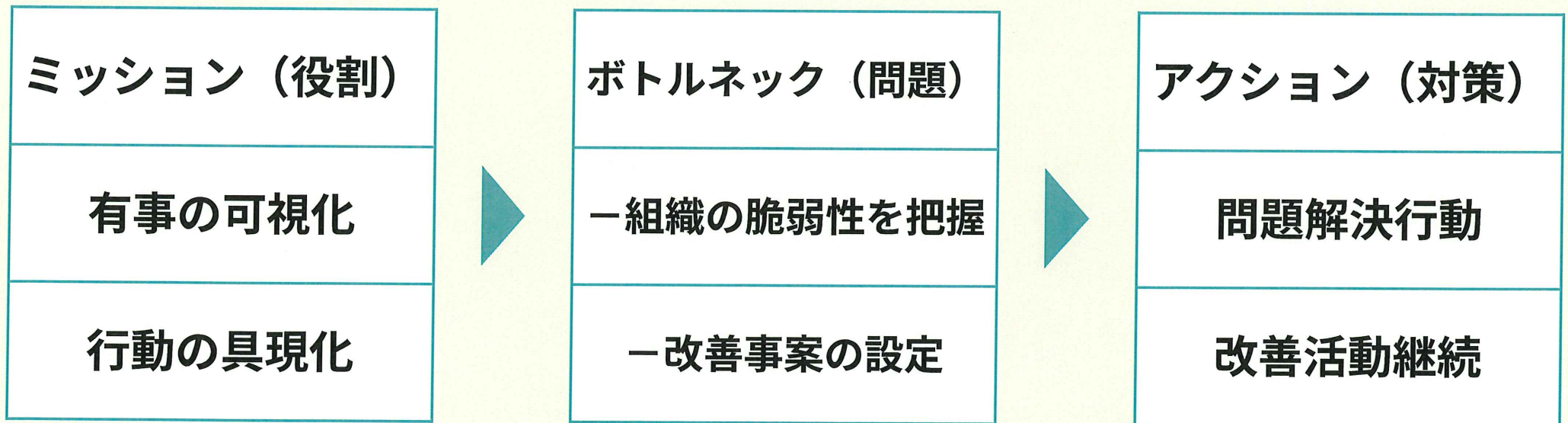
実効性の高いBCPとするために



伊藤 享佑 先生

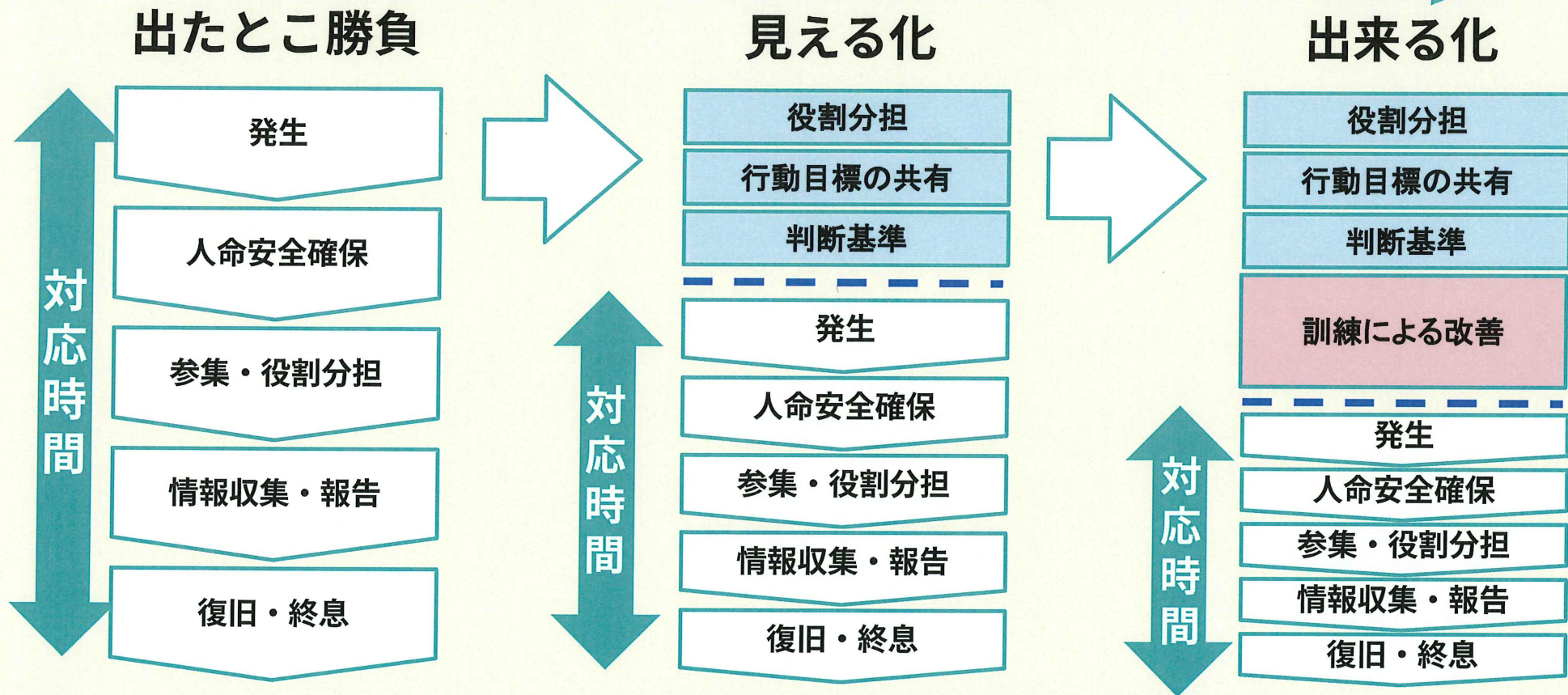
実効性の高いBCPにするために

- 非常時行動 **明確化 + 最速化**
 - 事業継続力強化（即応体制の構築 + 代替戦略の拡充）



災害時におこる企業の被害の一例

見える化⇒出来る化による対応スピードの向上



演習・訓練について

演習は目的や手法毎に
様々な種類及び**名称**が存在する

演習/エクササイズ組織を強くする取組み

【情報提供】

- セミナー

【話し合い】

- ワークショップ
- ケーススタディ

【模擬体験】

- モックディザスター

【総合】

- フルスケール

【状況付与】

- テーブルトップ
- シミュレーション

【部分機能訓練】

- ファンクション
- ロールプレイング

【訓練】

- ドリル
- テスト
- ウォークスルー

目的別の演習構成要素

演習

ワークショップ

ファシリテーター参加のもとに話し合いや議論により気づきを深め共感を高める演習手法

訓練

ドリル

定められた計画や実施した対策機能が有効化を反復・確認し習熟度を向上させる演習手法

ワークショップ

シナリオ非表示の模擬体験やゲーム形式により想定外を演出し新たな気づきや行動能力強化に繋げる演習手法

総合演習

各種演習要素を織り交ぜて、対応行動全体を通して実施する演習手法



現場職員向けBCP研修

これからのBCPの取り組み

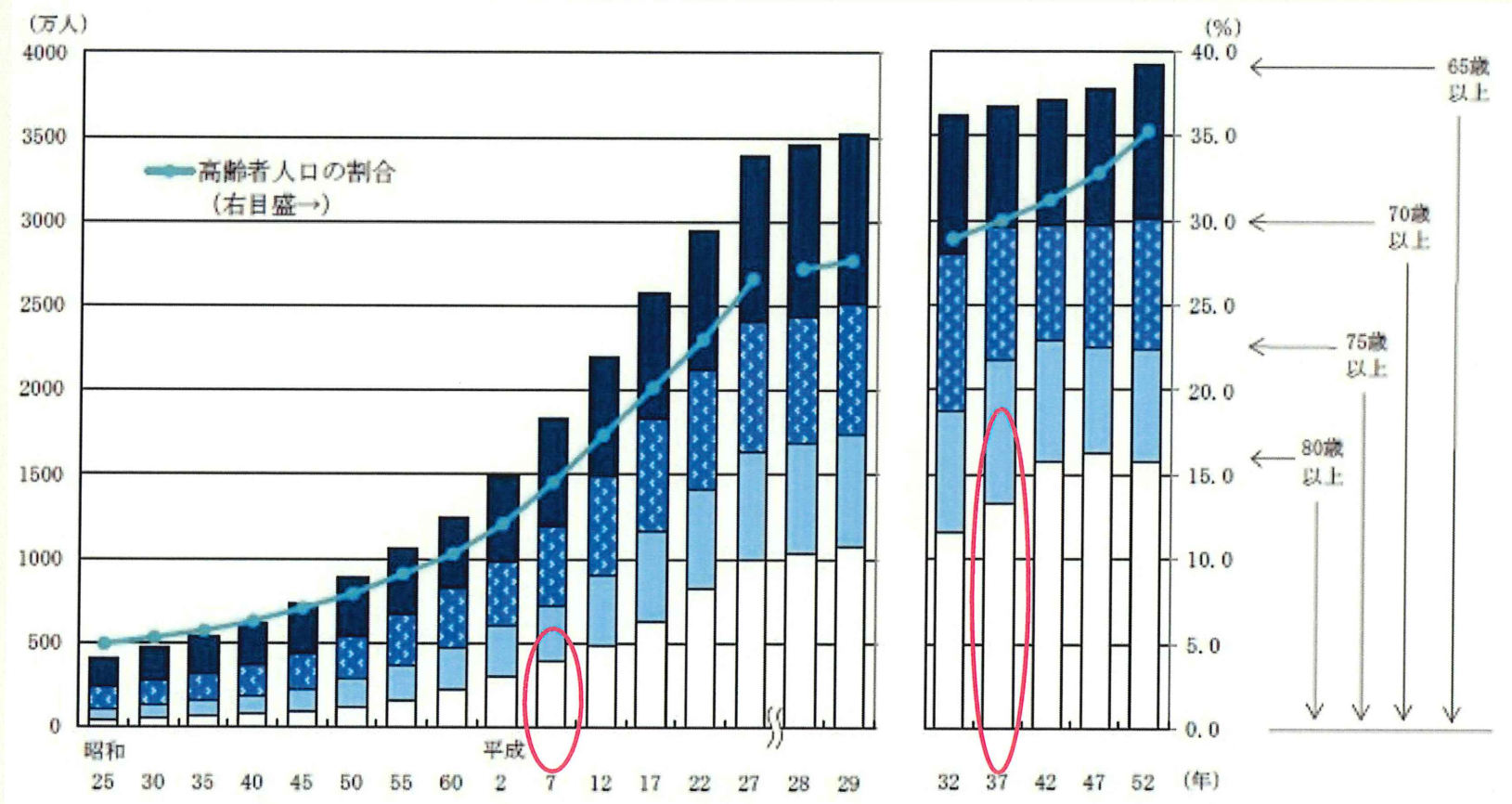


伊藤 享佑 先生



増え続ける高齢者人口

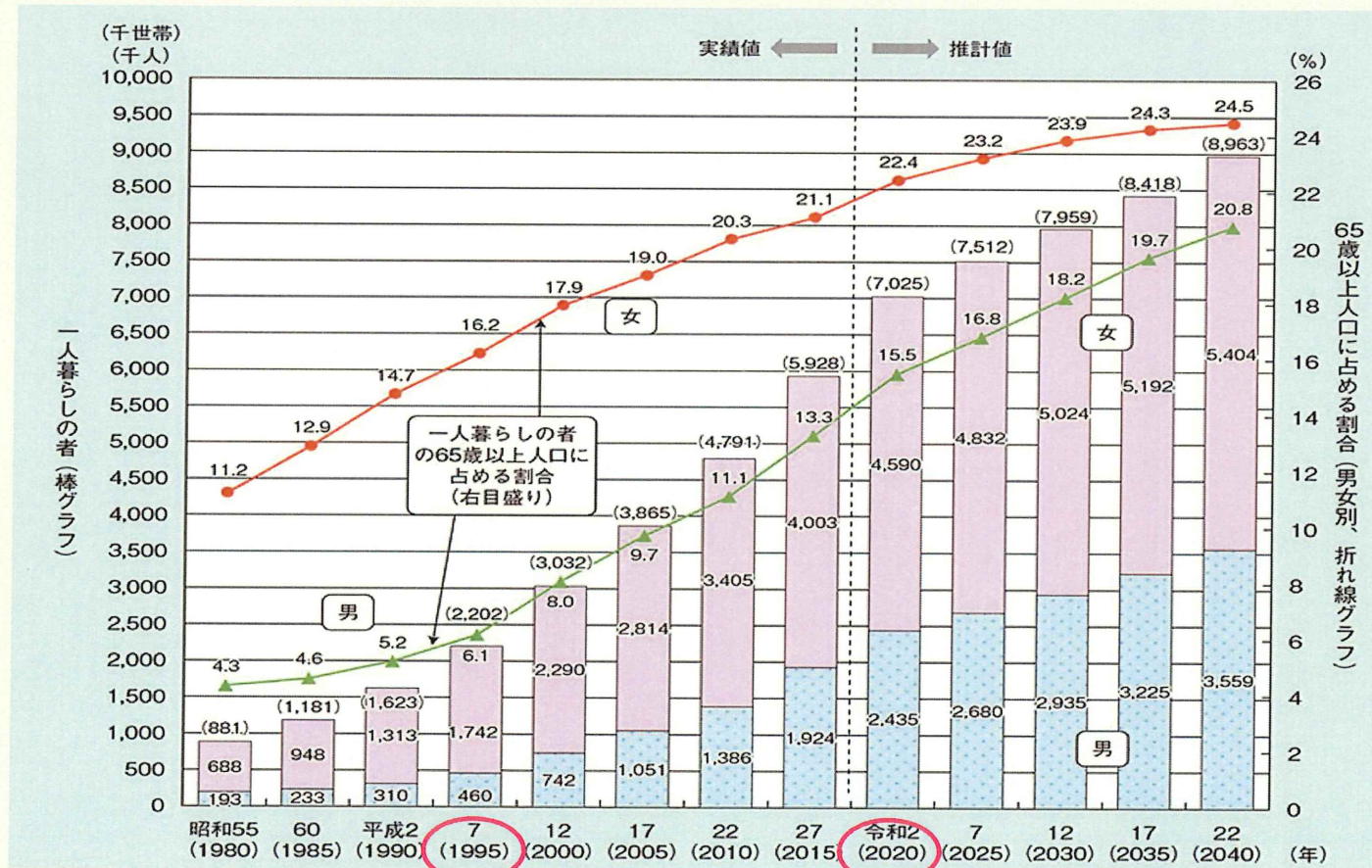
75歳以上は25年で2.6倍！



出典：総務省統計局「1. 高齢者の人口」<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi841.html>（最終アクセス日：2023/12/6）

激増する高齢単身世帯

25年で3.2倍！

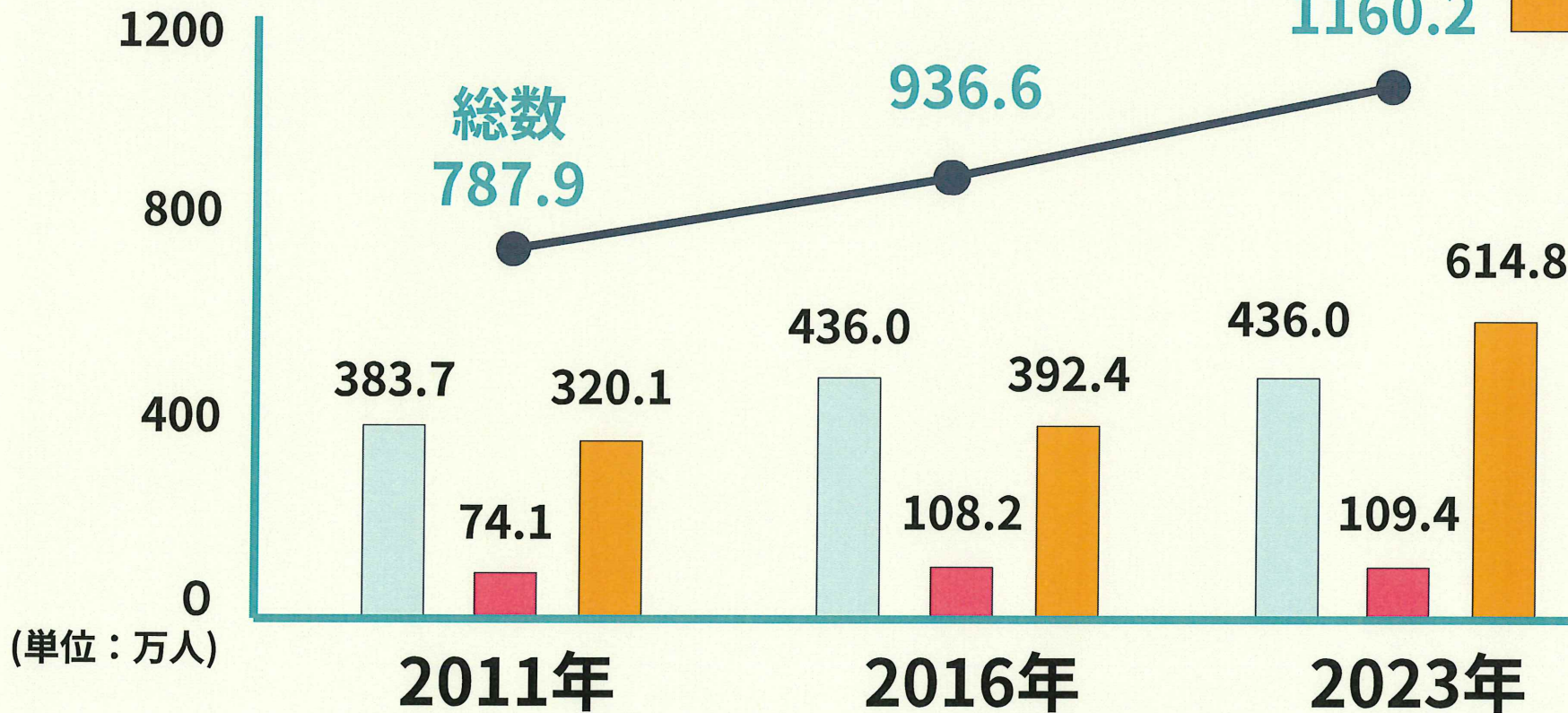


障がい者数の推移

12年で約1.5倍



- 身体障がい者
- 知的障がい者
- 精神障がい者



(単位：万人)

参考：厚生労働省「生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」

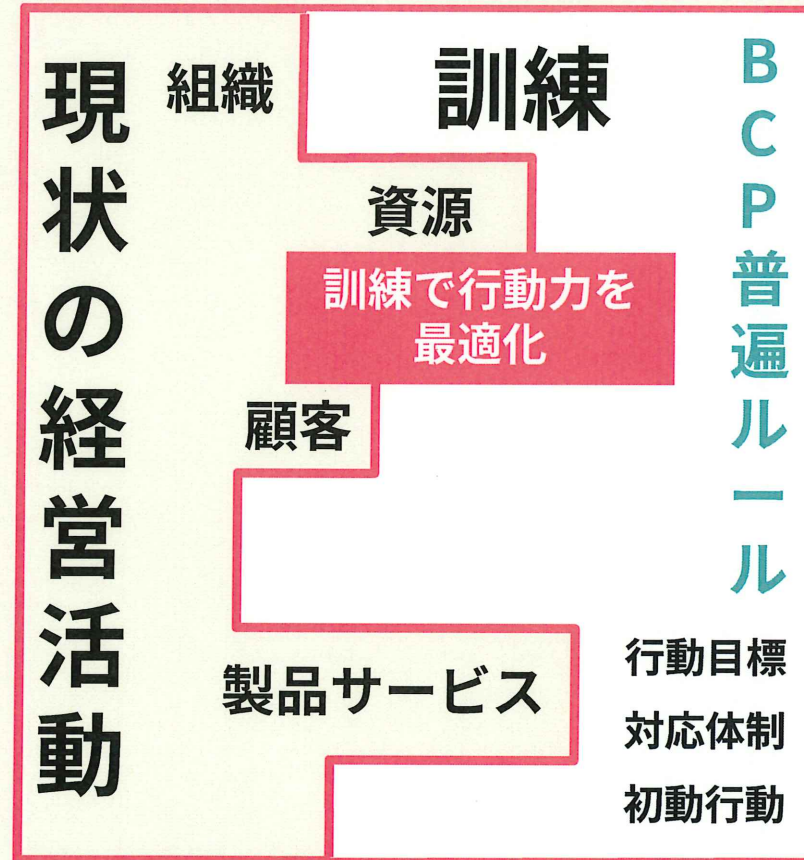
https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/seikatsu_chousa_list.html（最終アクセス日：2023/12/18）をもとにグラフを作成

これからのBCP

今まで



これから



危機対応に機敏な組織の形成



事業継続力

重要業務を維持し、サービス提供を継続する

ハード

事前対策

予防対策と
減災対応の実施

ソフト

行動計画

体制の整備と役割分担
行動基準及び手順

スキル

事前対策

訓練による人・組織の
危機対応能力の向上

規定・基準・マニュアルの改定

訓練・研修：スキルの向上